

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年7月号)

No.36

2020/06/30

りそなホールディングス 市場企画部

◆ 今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは6月30日(火) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		6月29日現在 (矢印は5月末比)	7月の予想	
為替相場	ドル・円 (円)	↓ 107.58	下落 ↓	105.00 ~ 109.00
	ユーロ・円 (円)	↑ 120.94	下落 ↓	116.00 ~ 122.00
株式相場	日経平均 (円)	↑ 21,995	下落 ↓	20,500 ~ 23,000
	NYダウ (ドル)	↑ 25,596	下落 ↓	23,000 ~ 26,000
長期金利	日本 (%)	↑ 0.010	横ばい ⇒	-0.05 ~ 0.08
	米国 (%)	↓ 0.62	横ばい ⇒	0.50 ~ 0.85

今月の見通し

為替	【ドル円】 ドル円は下落を予想。足元でリスク回避的なドル高円高の動きから膠着しているドル円だが、ドル買戻しの動きも一巡し、徐々にドルの上値が重くなるものと予想。米国内での感染再拡大もドルの上値を抑えるものとみる。 【ユーロ】 ユーロドルは横ばい、ユーロ円は下落。月前半はドル買戻しの動き、EU復興基金協議や英FTA交渉難航への警戒感等からユーロの上値は重いと見るが、復興基金への議論にまとまりの兆しが見られれば、徐々に値を戻そう。
株式	【日本株】 日本株は下落。米国で新型コロナの感染再拡大がみられる中、楽観一辺倒で上昇してきた株価にも一服感が出やすく、上値の重い展開を予想する。一方で、グローバルで大規模な財政・金融政策が行われている中で、株価は下支えられよう。 【米国株】 米国株は下落。テキサス州やフロリダ州等を中心に新型コロナが感染再拡大する中、株価は上値重い展開を予想。下旬から決算発表も始まり、企業業績に警戒感も高まりやすい。一方で、ワクチン開発も進んでいることや、積極的な財政・金融政策から下値も限定的とみる。
長期金利	【円金利】 日本国債は金利横ばいを予想。今月より補正予算を受け増発。日銀による積極的な買入が見込まれるものの、増発額は大きく、入札前後には金利が不安定化する場面もあろう。また、日銀による十分な買入が行われなければ、金利には上昇圧力がかかりやすくなる。 【米金利】 米国債は金利横ばいを予想。米国内で感染再拡大が懸念されることや、FRBが2022年までのゼロ金利を予想しており、金利は上昇しづらい。一方で、先行きの財政拡張懸念から金利低下余地も限定的であり、方向感出づらい。

◆ 今月の注目ポイント

新型コロナウイルスの感染再拡大から楽観ムードに陰り

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	◎	【景気】米国の新型コロナ感染再拡大動向に注意。アメリカでは南部のテキサス州やフロリダ州を中心に感染が再拡大しており、一日の感染者数が最多となるなどしている。両州は経済活動を一部制限、前回のような大規模なロックダウンを行う可能性は低いとみるが、医療崩壊には注意が必要とみる。マーケットでは、経済指標の急回復を受け、期待先行で楽観ムードが台頭。米国のサプライズインデックスは過去最高値圏まで上昇した。足元の感染再拡大は、こうした動きに冷や水を浴びせよう。一方で、政府や中銀の政策に伴う流動性の拡大や、ワクチンの開発も進んでいる状況であり、前回のような大幅な下落は避けられよう。
金融政策	○	【各国中銀】各国中銀の追加対応に注目。足元で感染の再拡大がみられる等、依然不透明感強く、各国中銀の対応に注目。既に大規模な金融緩和を行う中、今後の主な対応は企業への資金繰り支援の強化が中心に。また金利上昇時にはFRBによるイールドカーブコントロール導入が焦点。
政治	◎	【欧州復興基金・BREXIT】EUが合意を目指す7500億ユーロ規模の欧州復興基金。独仏間では合意となったものの、3分の2が返済不要の補助金となることからいわゆる「俵約4か国」が難色を示しており、協議は難航。7/17-18に開かれる首脳会議で合意できるかが注目。また年末にEU離脱を控えた英国とEU間でのFTA交渉も難航しており、動向が注目される。 【米国大統領選挙】11月の大統領選を前に、トランプ大統領は支持層へのアピールを意識した行動に出やすい。足元で共和党支持層の多い州を中心に新型コロナの感染が拡大しており、対応が注目される。一方対抗馬の民主党バイデン氏の副大統領選にも注目。人種差別反対への機運が高まる中、多様性を意識した人選になると予想されている。

◆ 今月の重要日程

1日(水) 日	6月調査日銀短観	16日(木) 中	20/2Q GDP
1日(水) 米	6月ISM製造業	16日(木) 欧	ECB理事会(結果発表)
2日(木) 米	6月雇用統計	17日(金) 欧	EU首脳会合(～18日)
14日(火) 米	6月CPI	21日(火) 欧	7月PMI
15日(水) 日	日銀金融政策決定会合	29日(水) 米	FOMC(結果発表)
15日(水) 米	米地区連銀経済報告	30日(木) 米	20/2Q GDP速報

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年7月号)

2020/06/30

◆ 今月の相場見通し① 為替

ドル 円

米ドル・円



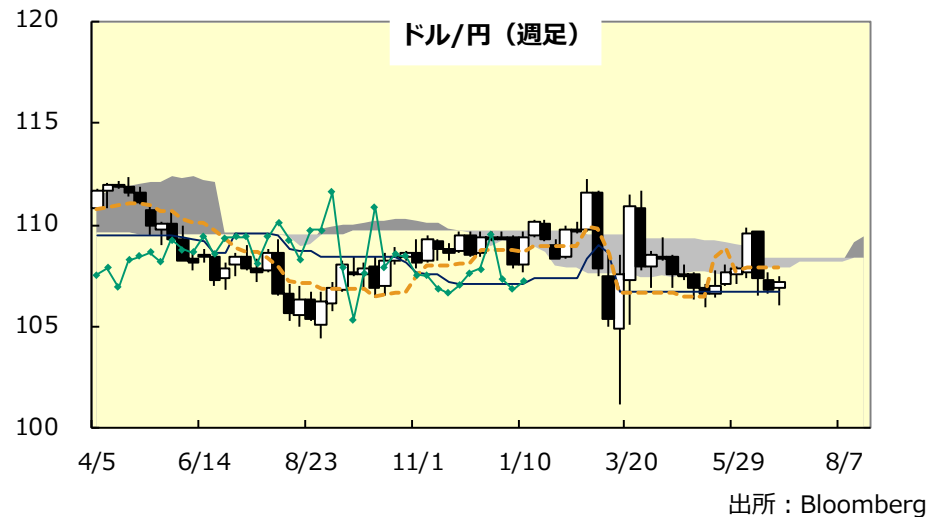
ドル・円は下落

105.00 – 109.00円

ドル円は下落を予想

6月のドル円は、6/5に発表された5月の米雇用統計が市場予想を大幅に上回る結果となり、米国金利の上昇につれて109円台後半まで上昇する場面もあった。その後FRBが大規模な国債買入のペースを継続するとしたことを受け米金利が落ち着くと、106-108円でのレンジ推移となった。

ドルインデックスは6月上旬にリスクセンチメントの改善から下落したが、足元では米国での感染再拡大の動きを受け、リスクオフムードから買い戻しの動きが優勢となっている。リスクオフ局面ではドル高・円高の動きとなりやすく、ドル円については横ばい圏での推移が継続。感染再拡大が懸念される中では横ばい圏での動きとなろう。ただし、ドルの買い戻しの動きも一巡し、米国での感染再拡大がさらに広がれば、徐々にドルの上値は重くなると見る。一方、日米の金融当局がともに緩和姿勢を鮮明としていることで、ドル円は引き続き動きが出づらいうだろう。



ユーロ

ユーロドル



ユーロドルは横ばい

1.10 – 1.15ドル

ユーロ円



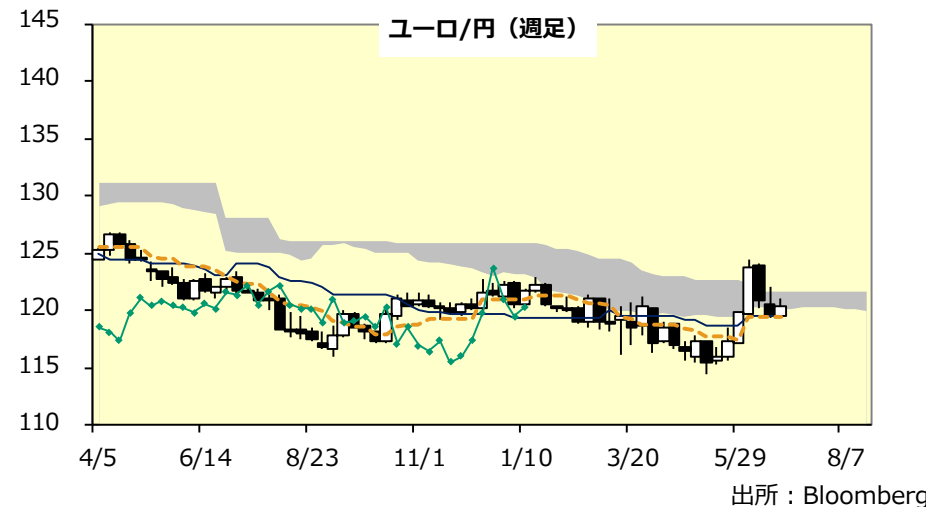
ユーロ円は下落

116.00 – 122.00円

ユーロドルは横ばい、ユーロ円は下落を予想

6月のユーロ相場は、月前半リスク選好の株高につれて対ドルでレンジを切り上げ。その後上値が重くなったものの、ユーロ圏経済指標の着実な回復とともに底堅い推移となっている。

7月のユーロ相場は対ドルで横ばい圏を予想する。目先はEU復興基金の議論が焦点。新型コロナでダメージを受けた欧州経済、特に南欧諸国では経済支援の必要性が高まっている。6月のEU首脳会議では加盟国間の立場の隔たりから進展がみられず。目先議論の難航からユーロ相場は下値を模索するが、7/17-18に予定される首脳会議に向けて議論がまとまることで徐々に値を戻すとみる。また足元は米国等で感染再拡大の動きもみられ、リスク回避のドル高もユーロ安圧力となるが、ドル買い戻しが一巡すれば月後半にかけては上昇も一服するだろう。ユーロ円はドル円下落につれて下落を予想する。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



リソな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年7月号)

2020/06/30

◆ 今月の相場見通し② 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は下落

20,500 – 23,000円

日本株は下落。

米国で新型コロナの感染再拡大がみられる中、楽観一辺倒で上昇してきた株価にも一服感が出やすく、上値の重い展開を予想する。米国のV字回復が相当程度織り込まれており、ファンダメンタルズ面の追加の買い材料は乏しい。一方で、グローバルで大規模な財政・金融政策が行われている中で、株価は下支えられよう。

NYダウ



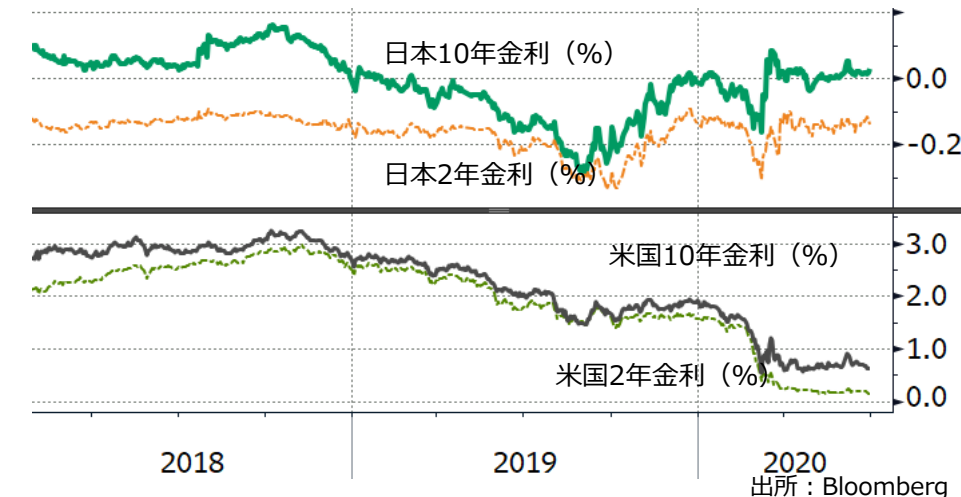
ダウは下落

23,000 – 26,000ドル

米国株は下落。

テキサス州やフロリダ州等を中心に新型コロナが感染再拡大する中、株価は上値重い展開を予想。下旬から決算発表も始まり、企業業績に警戒感も高まりやすい。一方で、積極的な財政・金融政策、普及には依然時間がかかると見られるが、ワクチン開発も進んでいることから下値も限定的とみる。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は横ばい

▲0.05 – 0.08%

日本国債は金利横ばいを予想。

今月より補正予算を受け大幅な増発となる。日銀による10年以下のゾーンを中心に積極的な買入が見込まれるものの、増発額は大きく、入札前後には金利が不安定化する場面もあろう。また、日銀による十分な買入が行われなければ、金利には上昇圧力がかかりやすくなる。

米国債10年



金利は横ばい

0.50 – 0.85%

米国債は金利横ばいを予想。

米国内で感染再拡大が懸念されることや、FOMCにてFRBが2022年までのゼロ金利を予想しており、金利は上昇しづらい。一方で、先行きの財政拡張懸念から金利低下余地も限定的であり、方向感出づらい。FRBは金利が急上昇する局面では、イールドカーブコントロール導入を検討するであろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年7月号)

2020/06/30

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
7/1(水)		5月建設支出 6月ADP民間雇用調査 6月ISM製造業景況感指数		7/16(木)	国庫短期証券(1年) 流動性供給入札(残存期間1年 超5年以下)	5月企業在庫 5月対米証券投資 6月小売売上高 7月フィラデルフィア連銀製造 業景況指数	(EU) ECB定例理事会 (中) 4-6月期四半期GDP (中) 6月固定資産投資 (中) 6月鉱工業生産 (中) 6月小売売上高
7/2(木)	10年債入札	5月貿易収支 6月雇用統計 (独立記念日)		7/17(金)	国庫短期証券(3ヶ月)	6月住宅着工	
7/3(金)	国庫短期証券(3ヶ月)			7/18(土)			G20財務大臣・中央銀行総裁 会議(～19日、ジッダ)
7/6(月)			(EU) 5月小売売上高	7/21(火)	20年債入札 国庫短期証券(6ヶ月) 日銀金融政策決定会合(～22 日)	6月シカゴ連銀全米活動指数	
7/7(火)	30年債入札		(豪) 準備銀行理事会	7/22(水)	国庫短期証券(3ヶ月) 黒田日銀総裁定例会見 日銀展望レポート	6月中古住宅販売件数	
7/8(水)		5月消費者信用残高		7/23(木)	(海の日)	6月景気先行指数	
7/9(木)	5年債入札 国庫短期証券(6ヶ月)		(中) 6月CPI	7/24(金)	(スポーツの日)	6月新築住宅販売	(EU) 7月ユーロ圏PMI (独) 7月IFO景況指数
7/10(金)	国庫短期証券(3ヶ月)			7/27(月)			
7/13(月)		6月財政収支	(中) 6月貿易統計	7/28(火)	40年債入札	5月S&P700とダウ工業株30種 平均株価 7月リッチモンド連銀製造業景 況指数 FOMC(～29日)	
7/14(火)	流動性供給入札(残存期間5年 超15.5年以下)	6月CPI	(EU) 5月鉱工業生産 (独) 7月ZEW景気期待指数	7/29(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (6/15～16開催分)	6月中古住宅販売成約指数	
7/15(水)		6月鉱工業生産 6月輸入物価指数 7月NY連銀製造業景況指数		7/30(木)	2年債入札	4-6月期GDP速報値	
				7/31(金)	国庫短期証券(3ヶ月)	6月個人所得・消費支出	(中) 7月PMI製造業

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年7月号)

2020/06/30

りそなホールディングス 市場企画部

◆ 景気の現状 日本

日本経済は急速に悪化、内外需ともに弱い状態が続き生産は自動車工業等を中心に大きく落ち込んでいる。足元では緊急事態宣言解除とともに最悪期を脱しつつあるものの、回復ペースは緩やか。

鉱工業生産

5月の前月比	▲8.4%	
生産予測	6月：5.7%	7月：9.2%

15業種すべてでマイナス、自動車工業が前月比▲23.2%と前月に続き大幅減少。新型コロナで需要が落ち込む中で生産調整の動きが続く。

貿易統計

	4月	5月
貿易収支	▲9,312億円	▲8,382億円
輸出（前年比）	▲21.9%	▲28.3%
輸入（前年比）	▲7.1%	▲26.2%

米国向け輸出が前年比▲50.6%、特に自動車は78.9%の減少。コロナによる経済制限の影響により大幅な減少となっている。

景気ウォッチャー調査

	4月	5月
現状判断DI	7.9	15.5

現状判断は4月に底打ち、先行き判断も16.6→36.5に回復。緊急事態宣言解除により持ち直しつつあるものの、水準は50を大きく下回る。

機械受注

	前月比	金額
4月の民需コア	▲12.0%	7,526億円

非製造業（船舶・電力除く）が前月の反動もあり▲20.2%と大きく減少。内閣府は基調判断を「足元は弱含んでいる」に下方修正。

全国消費者物価指数（前年比）

	4月	5月
総合	0.1%	0.1%
コア （除く生鮮食品）	▲0.2%	▲0.2%
コアコア （除く生鮮食品・エネルギー）	0.2%	0.4%

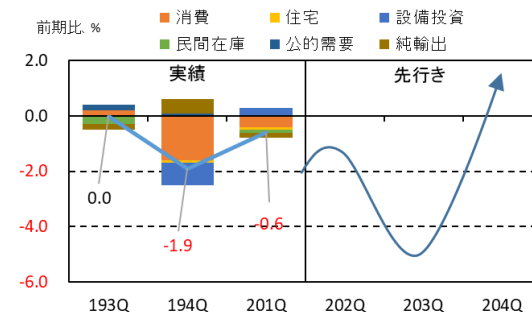
石油製品の価格が下押しした一方で、携帯電話機や宿泊代等が寄与してコア指数の伸びは前月から横ばい。コア物価は当面マイナス圏推移が予想される。

★ GDP見通し ★

・1-3月期のGDP2次速報値は、設備投資等の修正により前期比▲0.6%（年率▲2.2%）と、1次速報値▲0.9%（年率▲3.4%）から上方修正。新型コロナによる自粛の中で個人消費が弱含み2四半期連続のマイナス成長。

・4-6月期は大幅なマイナス成長が予想されるが、緊急事態宣言解除とともに景気は底をつけ、7-9月期以降は緩やかな回復に向かうとみられる。20年度成長率は▲5.0%、21年度は+3.5%と予測している。

内訳は寄与度 (%、%pt)	2019年度 実績	2020年度 予測	2021年度 予測
実質GDP	0.0	-5.0	3.5
個人消費	-0.3	-2.7	1.9
住宅投資	0.0	-0.2	0.1
設備投資	0.0	-1.0	0.8
在庫投資	-0.1	-0.1	0.0
公的需要	0.6	0.4	0.1
外需	-0.2	-1.2	0.5



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



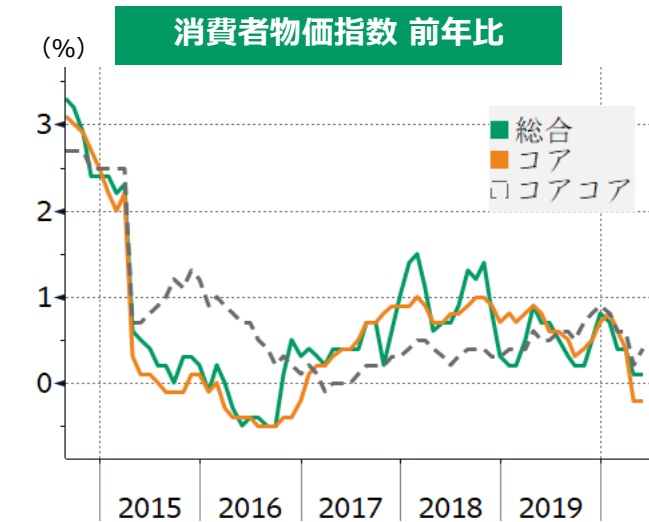
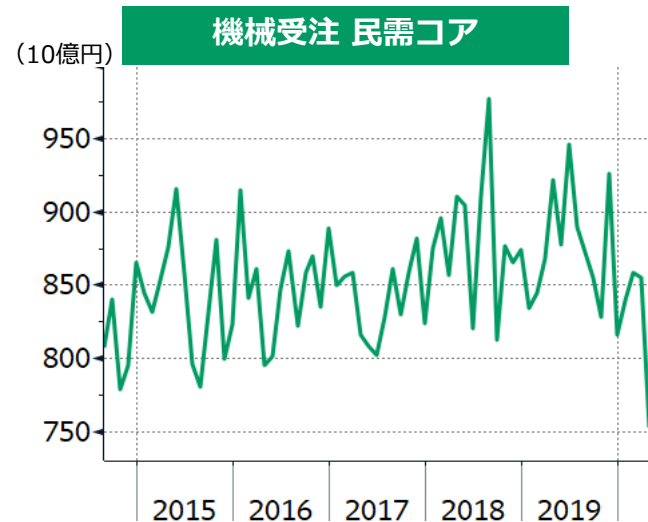
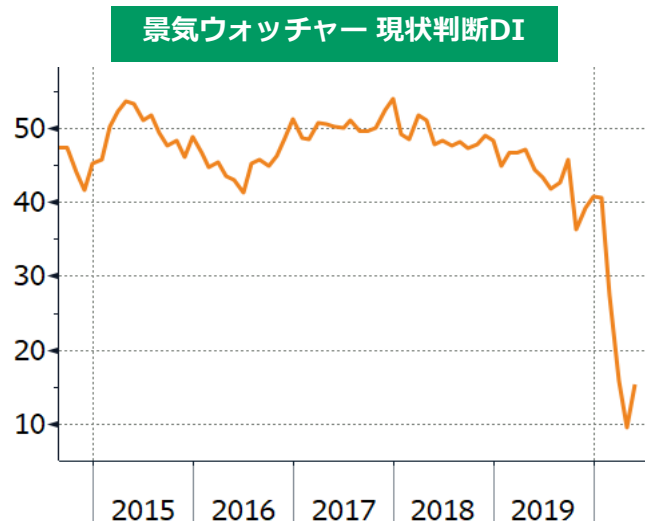
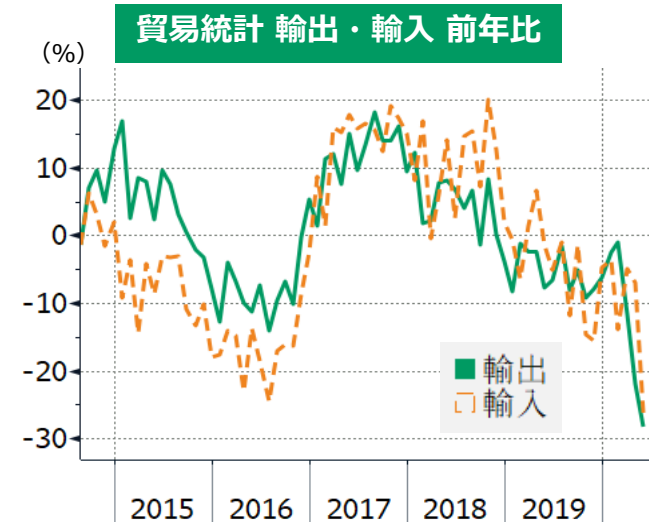
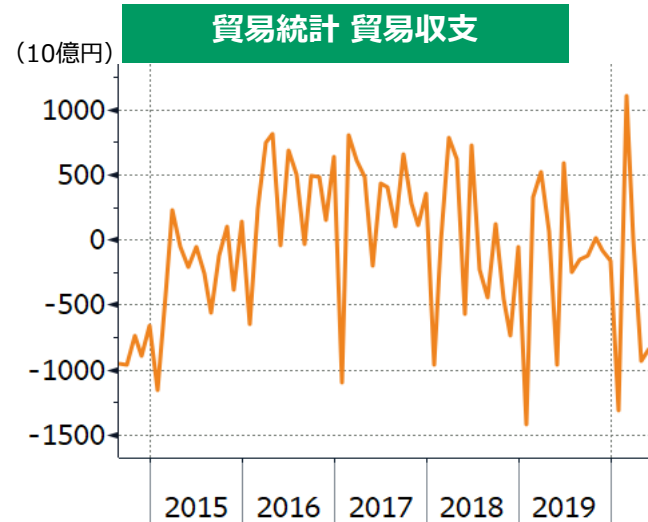
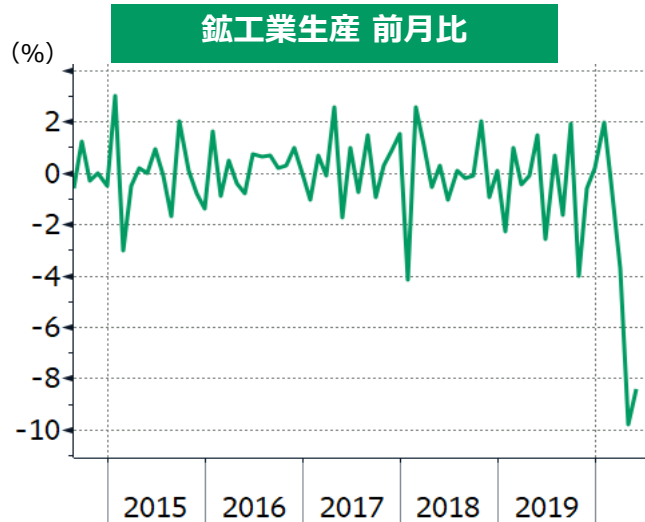
りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年7月号)

2020/06/30

りそなホールディングス 市場企画部

◆ 日本 チャート集

(出所：Bloomberg)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



リソな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年7月号)

2020/06/30

◆ 景気の現状 米国

経済活動制限により急速に景気悪化が進行したものの、生産・小売・雇用ともに4月をボトムとして改善がみられる。一方、足元は一部の州でみられる感染再拡大の動きには注意が必要。

小売売上高

4月の前月比 17.7%

4月の前月比▲14.7%から急反発。外出制限の動きが緩和される中で、自動車や家具・衣料品等に強い反動消費がみられた。

雇用統計

	4月	5月
非農業部門雇用者数（前月差）	▲2,068.7万人	250.9万人
失業率	14.7%	13.3%
平均時給（前年比）	7.9%	6.7%

予想に反し雇用者増、失業率低下と改善がみられポジティブサプライズとなった。一方、3・4月の悪化に対する改善は一部に過ぎず、水準は依然として低い。

消費者物価指数（前年比）

	4月	5月
総合	0.3%	0.1%
コア （除く食品・エネルギー）	1.4%	1.2%

衣料品や宿泊代、航空運賃等の一部品目で下落がみられるが物価全体への波及は限定的。インフレ率は当面低位推移が予想されるが、6月は反転の可能性。

ISM製造業指数

	4月	5月
	41.5	43.1

生産、新規受注、雇用指数がいずれも前月から改善。節目の50は下回るものの、4月を底として景況感の回復が確認された。

◆ 景気の現状 欧州・中国

欧州主要国でコロナ感染者が減少し経済制限措置が緩和されつつある中で、水準は低いものの緩やかな景気持ち直し基調となっている。中国経済は他地域に先駆けて景気回復の動きが鮮明。

ドイツ

	前月比
4月の鉱工業生産	▲17.9%
4月の小売売上高	▲6.5%

	5月	6月
IFO企業景況感指数	79.7	86.2
ZEW景況感期待指数	51.0	63.4

4月の生産・小売は大きくは落ち込んだものの、5・6月の景況感指数は改善傾向にある。

ユーロ圏

	4月	5月
CPI（前年比）	0.3%	0.1%

	5月	6月
総合PMI	31.9	47.5
製造業PMI	39.4	46.9

6月の製造業PMIは50近い水準を回復。欧州各国では4-5月にかけて経済制限が緩和され、景気は緩やかな持ち直し基調にある

中国

	4月	5月
鉱工業生産（前年比）	3.9%	4.4%
小売売上高（前年比）	▲7.5%	▲2.8%
固定資産投資（年初来前年比）	▲10.3%	▲6.3%
貿易統計（輸出：前年比）	3.5%	▲3.3%

	5月	6月
製造業PMI	50.6	50.9

製造業PMIは4か月連続で50超と回復基調が鮮明。鉱工業生産は前年比上昇の一方で小売はマイナスが続いており出遅れが目立つ。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



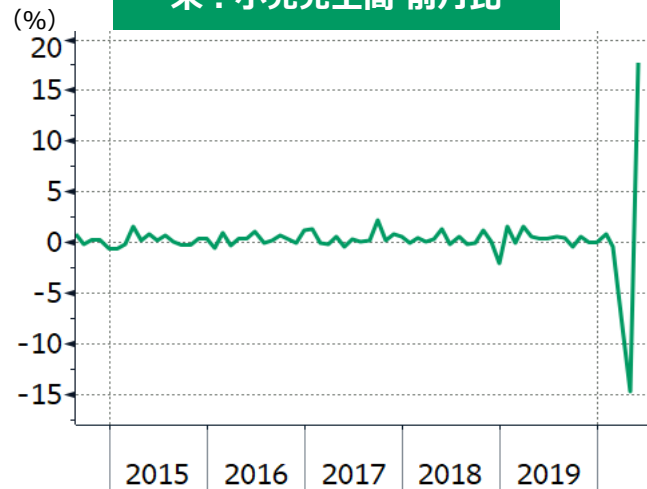
りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年7月号)

2020/06/30
りそなホールディングス 市場企画部

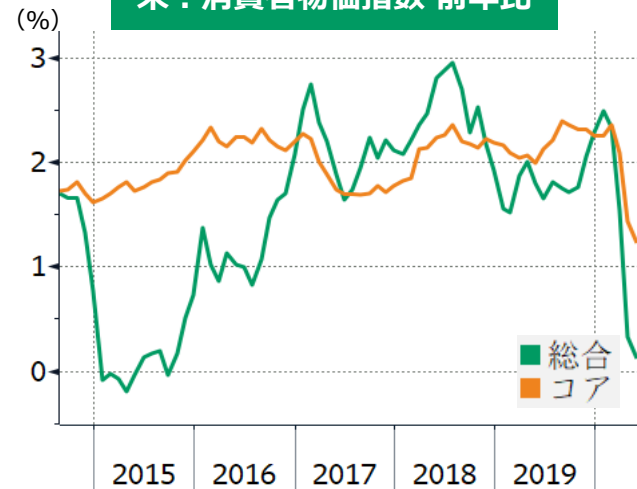
◆ その他 チャート集

(出所: Bloomberg)

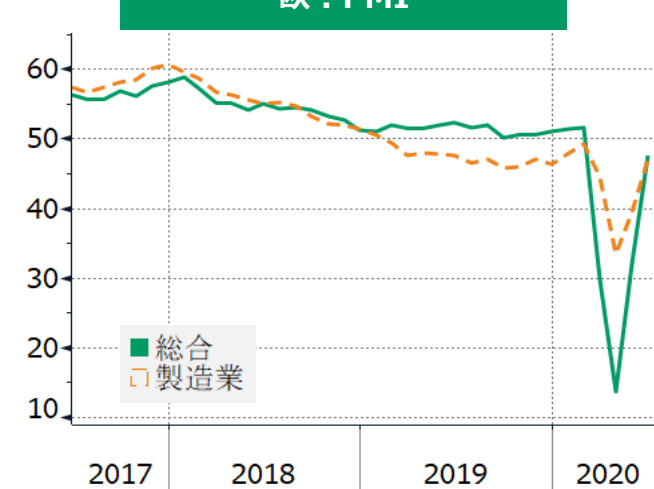
米：小売売上高 前月比



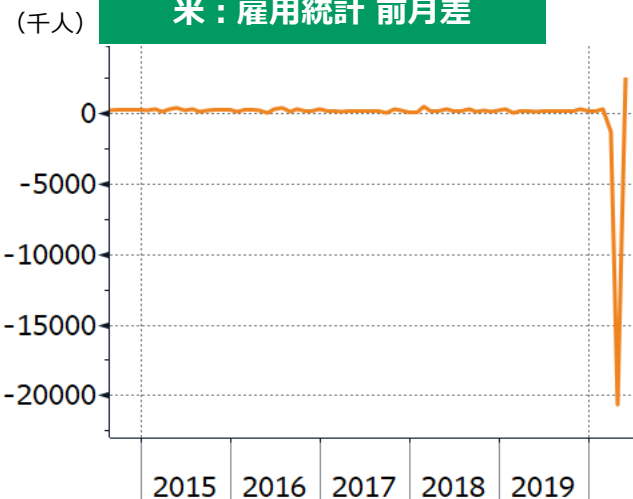
米：消費者物価指数 前年比



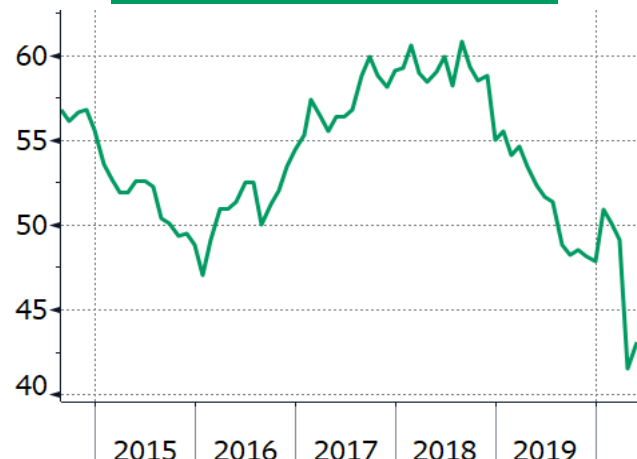
欧：PMI



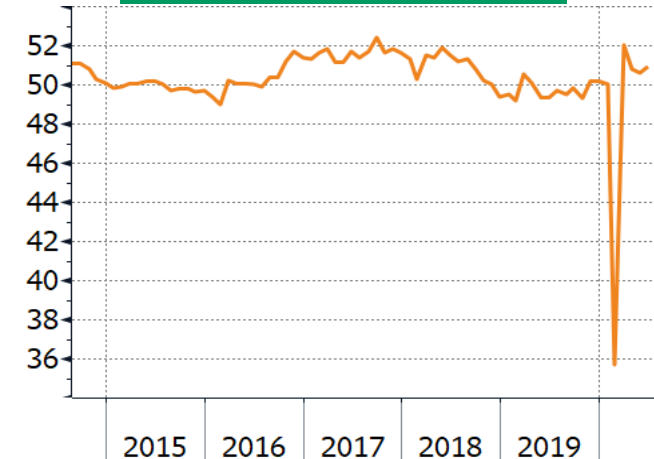
米：雇用統計 前月差



米：ISM製造業指数



中：製造業PMI



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。